

「自主防災アンケート調査」ご協力・ご回答のお礼

単純集計結果【速報版】

平成 30 年 11 月
京都女子大学 奥井研究室

本報告書は、京都市「学まち連携大学」促進事業の一環として、今春に東山消防署のご協力を得て実施させていただきました「自主防災アンケート調査」の単純集計結果【速報版】です。平成 30 年 2～3 月にかけて、区内の全自主防災部長様を対象に本調査を実施いたしましたところ、総配布数 335、回収数 216、有効回答数 213（回収率 63.6%）と大変多くの方にご協力を頂きました。ご多忙の折、ご協力を頂いた皆様には心より御礼申し上げます

この度ご回答いただきました調査票のうち、36.6%（78 通）とおおよそ 3 枚に 1 枚は末尾の自由記述欄にもさまざまなご意見のご記入をいただきました。本課題に対する自主防災部長様のご関心の高さが示されたものと受け止めております。今年度は 6 月の大阪北部地震にはじまり、大雨や台風と災害が続き、調査実施以降も地域の防災への関心はより一層高まっていることと考えられます。

本企画は東山区における自主防災活動の状況と、その基盤となる地域住民組織の現状について明らかにすることを目的として実施いたしました。本報告書は、ご回答いただいた単純集計結果を取り急ぎ【速報版】としてご紹介するものです。より詳しい分析につきましては、3 月 17 日（日）東山区総合庁舎にて開催される平成 31 年東山区民消防表彰式にてご報告させていただく予定です。

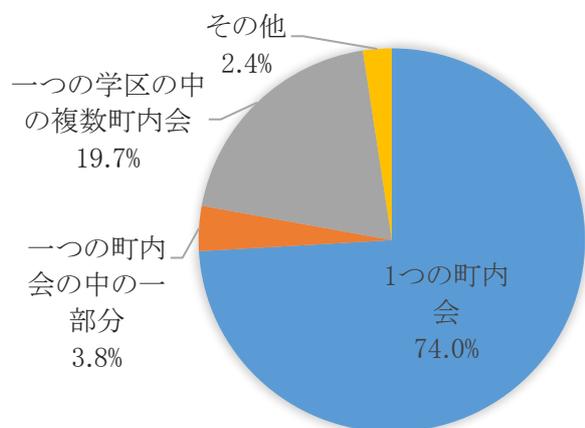
今後とも本学の教育にご理解ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

【お問合せ】

京都女子大学 〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35
（奥井亜紗子研究室直通）075-531-9180
（地域連携研究センター）075-531-7103（担当：家 績子）

I. 地域の防災活動や取組についての自主防災部長のご意見

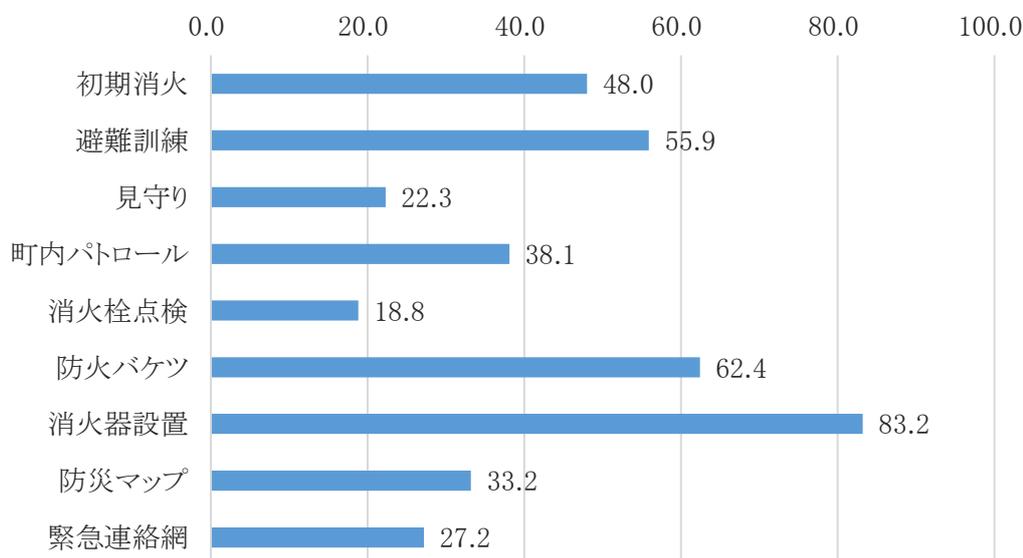
図1 自主防災部の単位



注:実数 N=208。無回答(5)を除く。

→町内会単位での組織が大多数であるが、複数町内会で1つの自主防災部を組織するケースも約2割を占める。

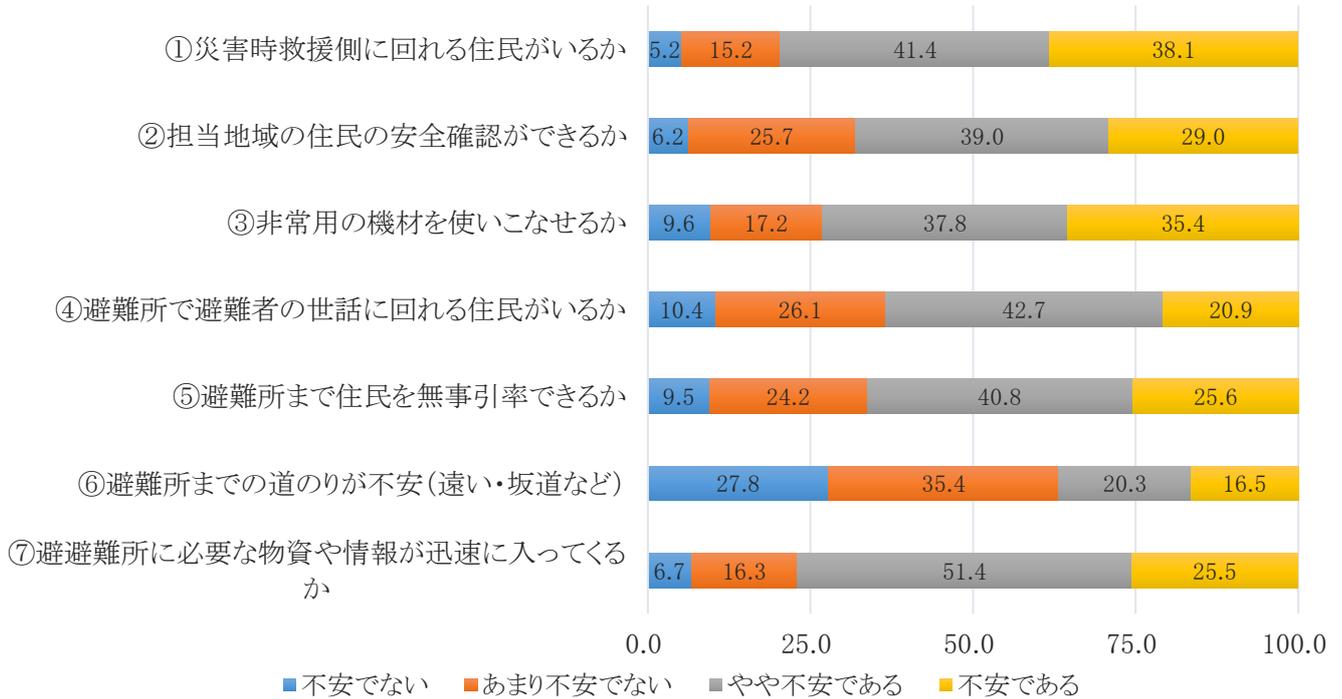
図2 地域で行っている防災活動や取組み (%)



注:複数回答

→見守りや消火栓の点検を行っている自主防災組織は少ない。緊急連絡網も3割を切っている

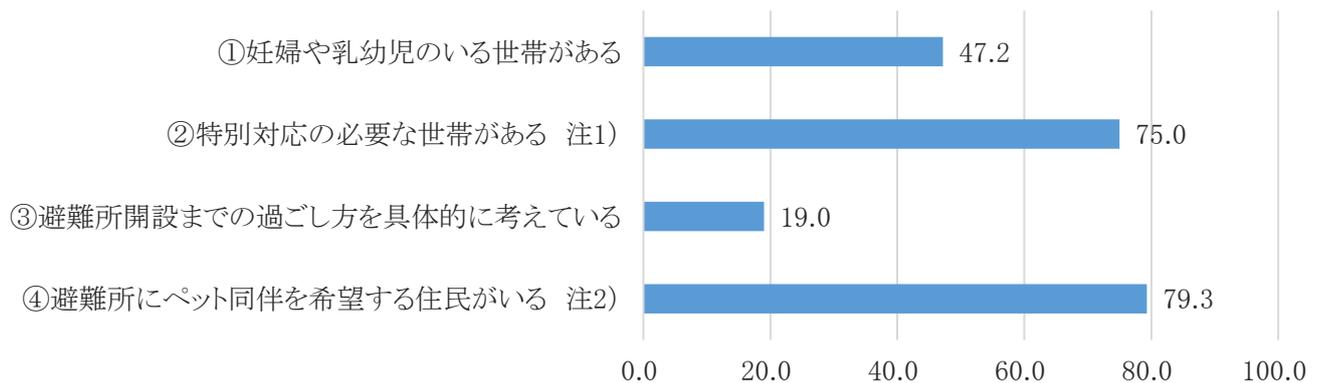
図3 自主防災部長として不安に思うこと(%)



注:実数 N はそれぞれ①210、②209、③213、④211、⑤212、⑥211、⑦208、無回答を除く。

→全体的に不安を感じている割合が高い。なかでも災害時に救援側に回れる住民がいるかどうかは「不安である」「やや不安である」を足すと約8割にのぼる。

図4 地域の状況(%)



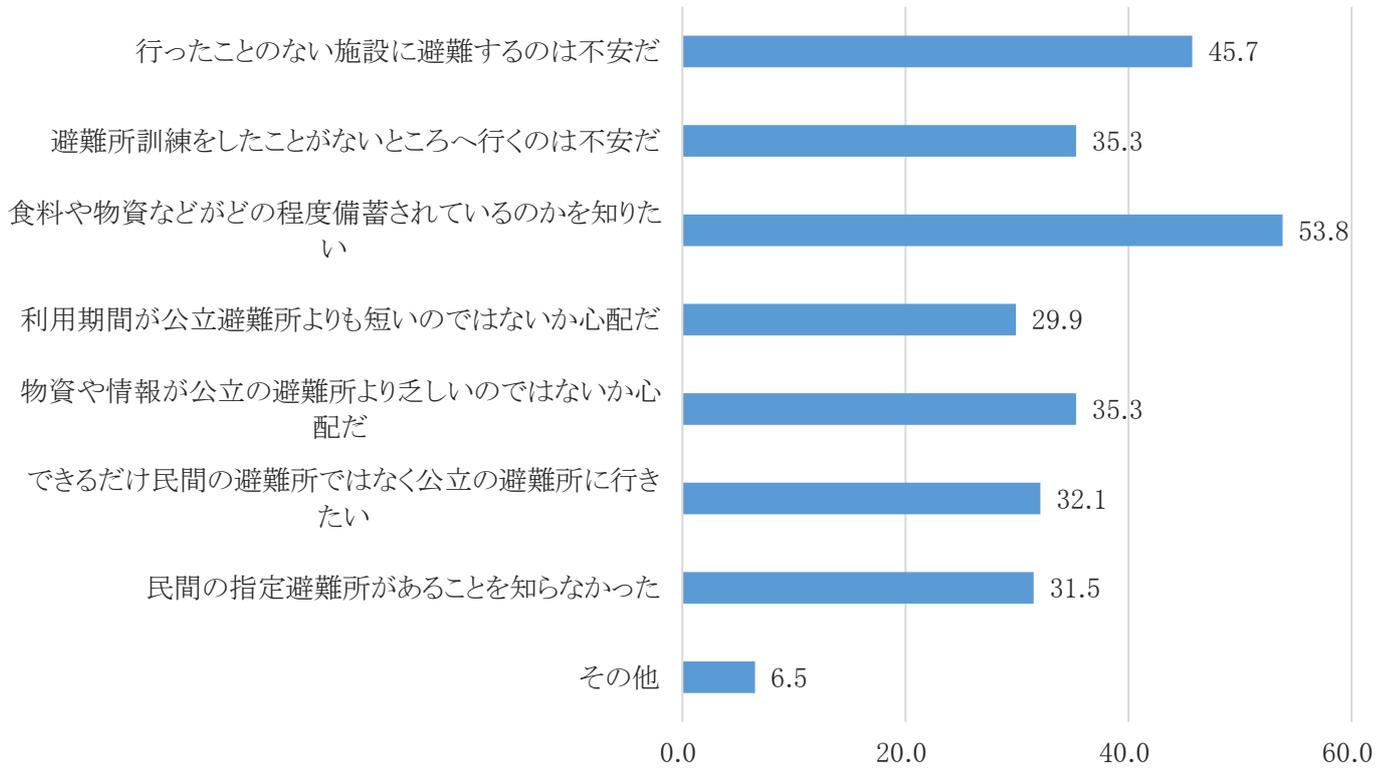
注:実数 N はそれぞれ①199、②196、③203、④200、それぞれ無回答を除く。

注 1)寝たきり高齢者、身障者のいる世帯など。

注 2)避難所にペットを連れていくことを希望する住民がいるかいないかは自主防災部長の主観による。

→特別対応世帯やペット同伴希望であろう世帯の多さが特徴。妊婦・乳幼児世帯も約半数。

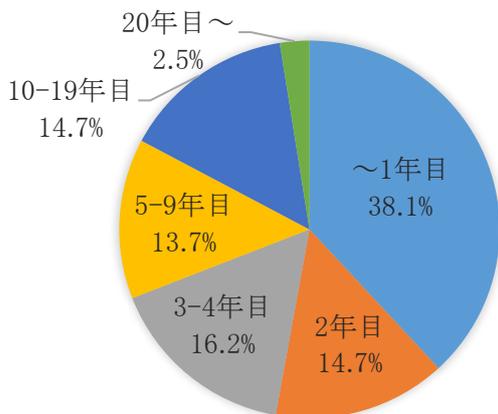
図5 民間の避難所について感じる事(%)



注:複数回答

→3人に1人の自主防災部長は民間避難所の存在自体を知らない。民間避難所指定されている施設との接点のなさ、情報のなさが不安をもたらす。

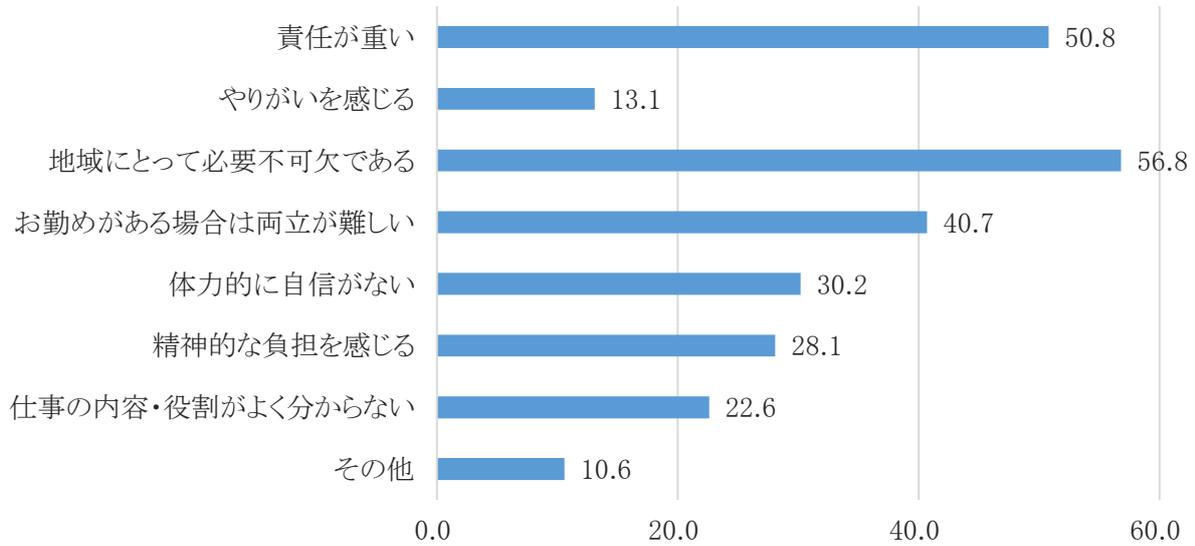
図6 自主防災部長歴



注:実数 N=197。無回答(16)を除く。

→1年未満が最も多く約4割を占める。一方10年以上も少なくない。

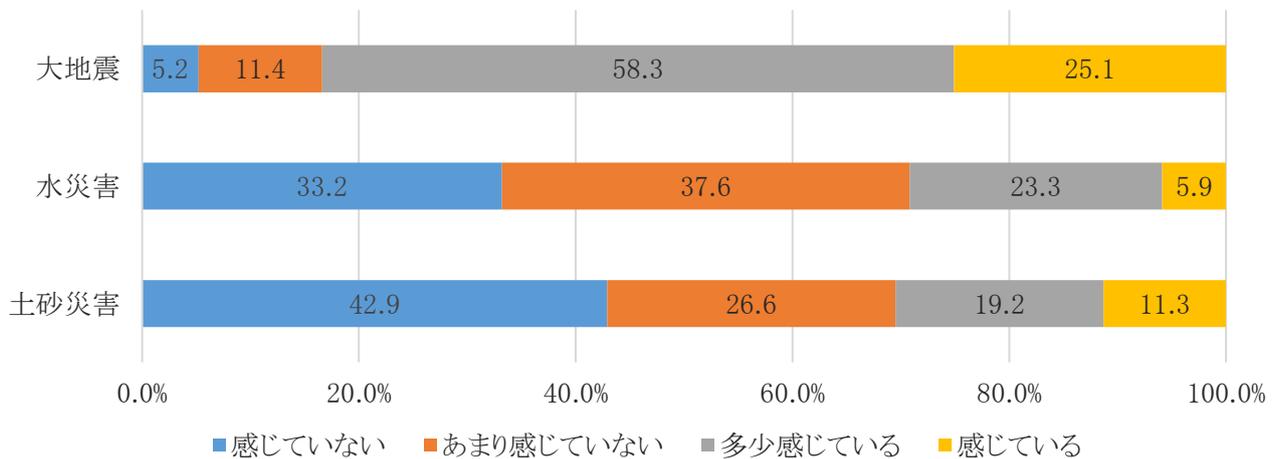
図7 自主防災部長の仕事はどう思うか(%)



注:複数回答。

→自主防災部長の仕事「地域にとって不可欠」と考える割合が最も高いと同時に、責任の重さや仕事との両立の難しさを訴える回答が多い。一方、仕事内容がよくわからないという回答も2割を超えている。

図8 災害に対する不安度

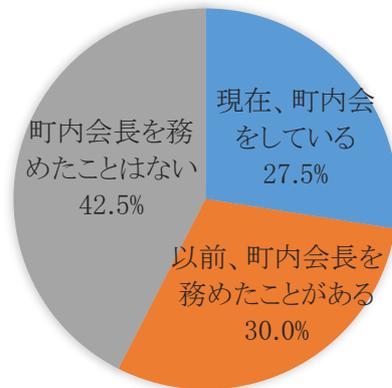


注:実数 N はそれぞれ大地震(211)、水災害(202)、土砂災害(203)。無回答を除く。

→大地震への不安を「感じている」は4人に1人、「多少感じている」を含むと唯一8割を超える。大阪北部地震を経た現在はもう少し多くなっていることが予想される。

Ⅱ. 所属する町内会の現状

図9 町内会長の経験



注:実数 N=200。無回答 13 を除く。

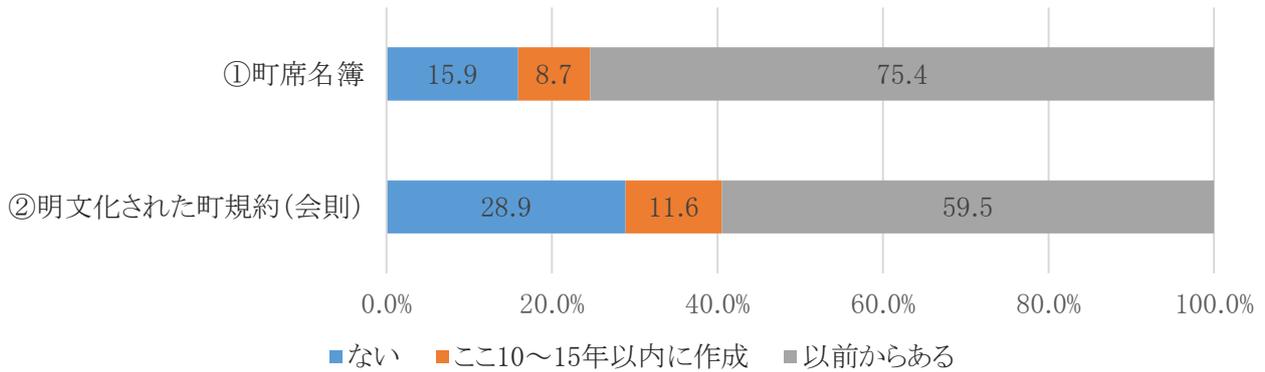
→約 6 割の自主防災会長が町内会長を経験している。

表1 所属する町内会の規模

	実数	%
20 世帯未満	36	16.9
20-39 世帯	50	23.5
40-59 世帯	54	25.4
60-79 世帯	18	8.5
80-99 世帯	18	8.5
100 世帯以上	12	5.6
無回答	25	11.7
計	213	100

→20~40 世帯が中心であるが、無回答も 1 割を超えている。

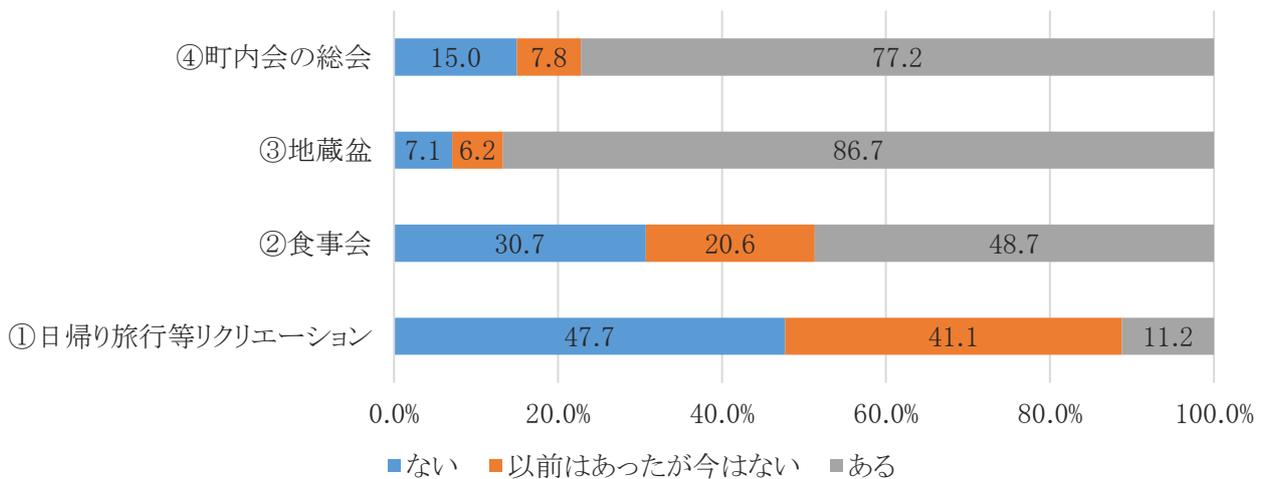
図10 町内会にあるもの



注:実数 N はそれぞれ①195、②190。無回答は除く。

→町席名簿は大多数の自治体が持っている。明文化された会則は近年作成した町内会も 1割を超える。

図11 町内会活動の現状



注:実数 N はそれぞれ①206、②210、③199、④197。無回答を除く。

→総会、地蔵盆は大多数の自治会で存続しているが、住民同士の懇親を目的とした食事会やリクリエーションは近年衰退が顕著である。

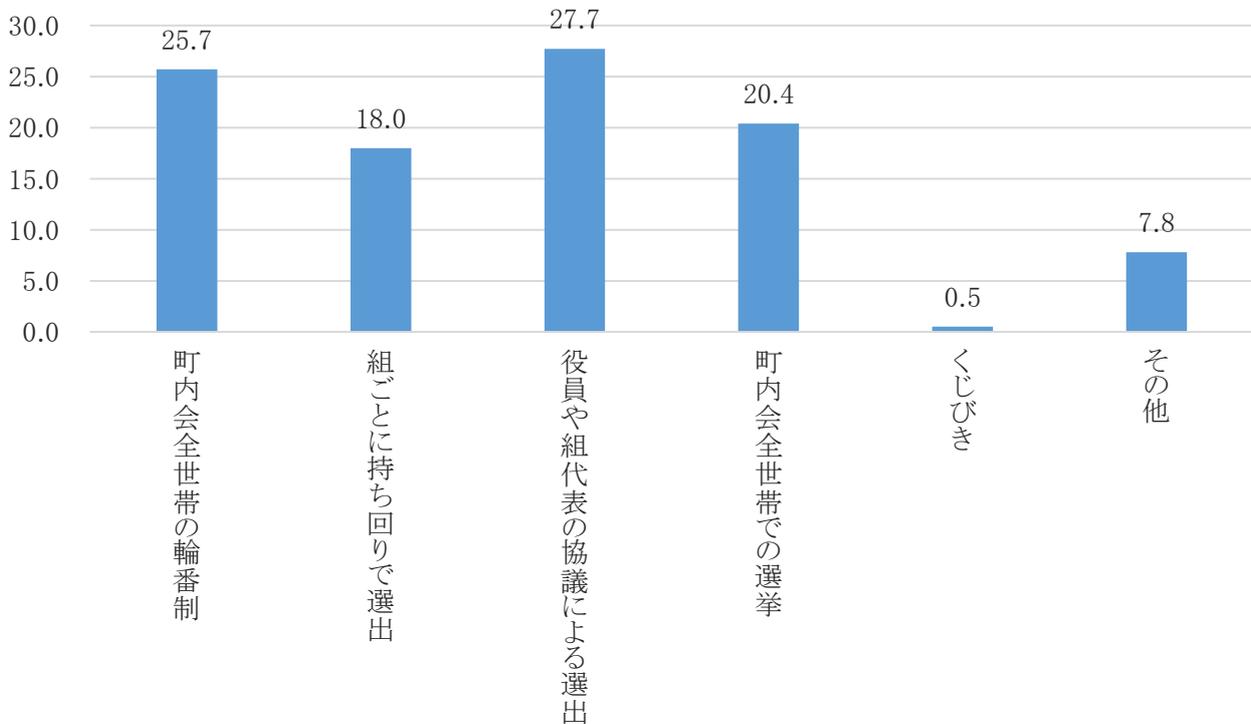
表2 町内会の状況(1)

	町内会未加入世帯		空き家		後期高齢者のみ世帯	
ある	97	45.5	132	62.0	165	77.5
ない	54	25.4	41	19.2	11	5.2
分からない	41	19.2	27	12.7	23	10.8
無回答	21	9.9	13	6.1	14	6.6
計	213	100.0	213	100.0	213	100.0

表3 町内会の状況(2)

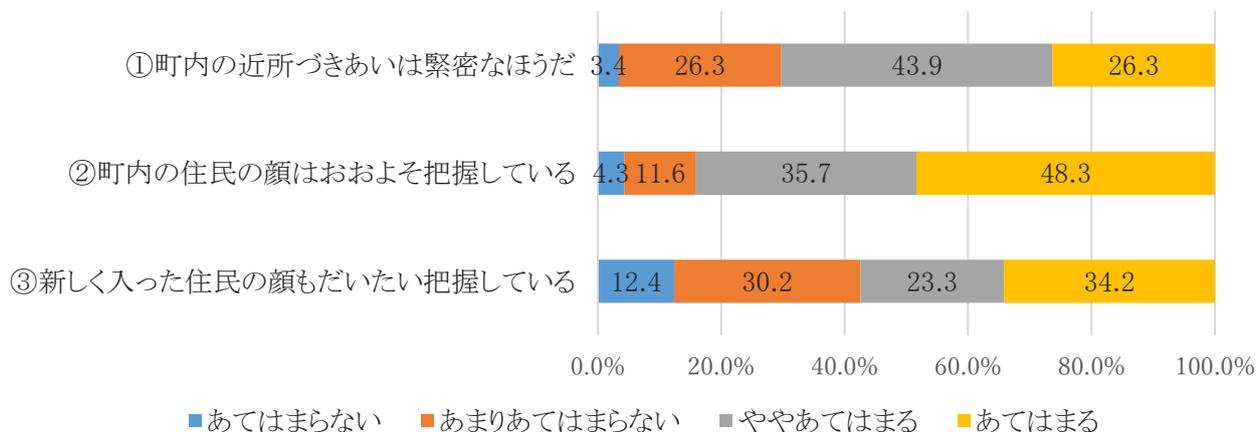
	ゲストハウス		賃貸アパート・マンション		分譲マンション	
ある	113	53.1	147	69.0	41	19.2
ない	70	32.9	40	18.8	134	62.9
分からない	14	6.6	12	5.6	20	9.4
無回答	16	7.5	14	6.6	18	8.5
計	213	100.0	213	100.0	213	100.0

図12 町内会長の選出方法(%)



注: 実数 N=206。無回答(7)を除く。

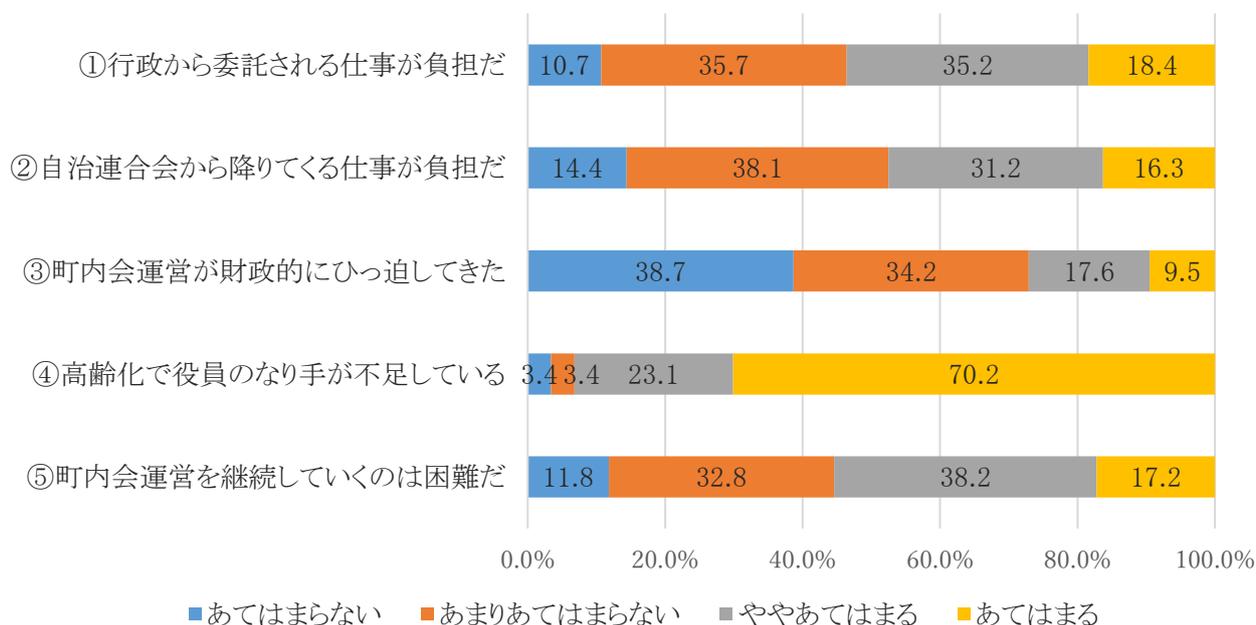
図13 町内の状況(1)近隣づきあいについて



注:実数 N はそれぞれ①205、②207、③202。無回答を除く。

→近所づきあいが緊密な町内会が約 7 割。住民同士が顔を把握しているところが多く、新住民の顔も把握しているという回答も過半数を占めている。

図14 町内の状況(2)町内会運営について

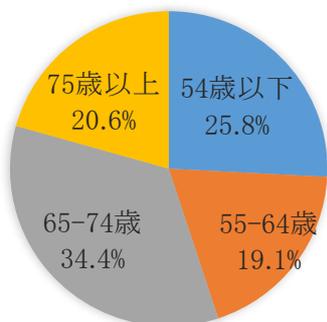


注:実数 N はそれぞれ①196、②202、③199、④208、⑤204。無回答を除く。

→高齢化による役員の担い手不足は「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると 93.3% であり、ほぼすべての町内会が直面する喫緊の問題である。

Ⅲ. 回答者の属性

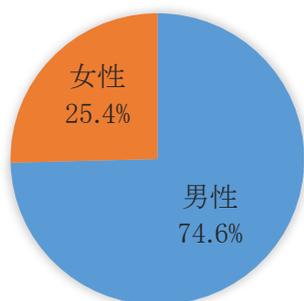
図15 年齢



注:実数 N=209。無回答(4)を除く。

→54歳以下が25.8%と4分の1を占める一方、75歳以上も2割を超える。

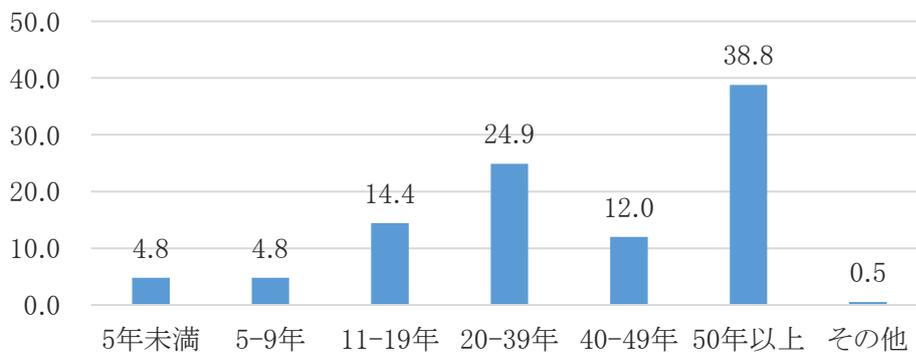
図16 性別



注:実数 N=205。無回答(8)を除く。

→女性の自主防災部長も4人に1人を占めている。

図17 居住期間



→半世紀以上居住している自主防災部長が4割近い。

表4 回答者の就業状況

		実数	%
仕事をしている	勤め	64	30.0
	自営	73	34.3
	不明	8	3.8
仕事をしていない		65	30.5
無回答		3	1.4
計		213	100.0

→仕事をしている人が約7割を占める。自営業が多いことが特徴。

表5 学区別回収率

	配布数	回答数	有効回答率
粟田	39	16	41.0
有済	21	15	71.4
弥栄	27	17	63.0
新道	27	24	88.9
清水	27	18	66.7
六原	31	13	41.9
貞教	26	18	69.2
修道	33	32	97.0
今熊野	29	20	69.0
一橋	36	23	63.9
月輪	39	17	43.6
計	335	213	63.6

ご協力ありがとうございました。